

# 仏の教えに通った報恩謝徳の暮らし

十月一日の十五夜の月、二十八日の十三夜の月見られましたか？私は十五夜さんは見ましたが、十三夜の月は二十八日見るのを忘れていました。ただ、三十日の日に久留米市からわが家への帰りにほぼ満月のきれいな月を見ました。

きれいな月を見ると法然聖人のお歌を思い出します。  
月影の至らぬ里は  
なけれども  
眺むる人の  
心にぞ住む

きれいな月と気づき眺めた時に初めてその美しさをいただくことができます。

そして、この歌で聖人がお伝えになったかった真意  
阿弥陀さまのお慈悲は  
わけへだてなくすべての  
人に届いているけれども、  
お慈悲に包まれていること  
に気づいた時に、お慈悲  
がこの身の上ではたら

いてくださる  
とも教えていただきます。

さて、大学一年の時に「四諦・八正道」というお釈迦さまがお示しになられた仏教の基礎を学びました。

学生時代、八正道をなかなか覚えることができず苦労したものです。

- 八正道とは
- ①正見②正思维③正語
- ④正業⑤正命⑥正精进
- ⑦正念⑧正定

の八種です。

本来、仏道を歩む行者が修すべき八つの行のことです。これは同時に人が「仏の教えに適った暮らしを送る道」でもあります。

コロナ禍でステイホーム中に読書をしました。その中龍谷大学仏教学レクチャーシリーズ「仏教と人生の課題」四という書籍に、龍谷大学文学部の楠淳澄教授が

「沙羅双樹の花の色」

と題して文章をお書きになっ  
ておられ、その中の一節に次のように八正道をわかりやすくお示しくださいました。

そもそも、私たちはものを正しく見る智慧のまなこ（仏のまなこ＝正見）などありません。そこで、釈尊は「仏のまなこ」を「教え」という形にして私たちにお与え下さり、「仏の教えに適った暮らし」を送れとお諭しになったのです。その教えを我がまなこ（正見）とし、仏の教えに適った正しい思索（正思维）、仏の教えに適った正しい発言（正語）、仏の教えに適った正しい行い（正業）をする日々（正命）を勤め励んで（正精进）送る時、私たちの愚かなあり方は正されていき、「まことのあり方」を素直に受けとめる正しい思念（正念）に

満たされるようになります。そうになると、私たちの心は何ものにも邪魔されることなく穏やかに落ち着き（正定）、ついにものを正しく見つめる智慧のまなこ（正見）を得ることができるようになります。

このようにただだけ八正道もすんなりと頭に入ります。ただ、頭に入ってもこのような行動は私にはとうていできそうもありません。八正道のみ教えは六道を輪廻するこの私を救おうとされる釈尊のお示しでしたが、釈尊は阿弥陀如来の南無阿弥陀仏のお救いもお示しくださいました。

このお示しこそが私が歩ませていただく「念仏無礙の一道」です。  
「どんな愚かな者でも安らぎの世界（浄土）に携え取って仏とせずにはおかない」「必ず救うぞ、我にまかせよ」の阿弥陀如来の願いのまま生きる者の上に「仏の教えに適った暮らし」が現れます。それが「報恩謝徳」の暮らしのあり方でしょう。

## 法語の世界

《原文》

おなじく夢にいはいはく、翌年極月二十九日夜、前々住上人仰せられ候ふやうは、家をばよく作られて、信心をよくと  
り念仏申すべきよし、かたく仰せられけりと云々。

〔蓮如上人御一代記聞書〕二百五十四

《現代語訳》

これも蓮悟さまの夢の記録です。  
永正元年十二月二十九日の夜の夢である。蓮如上人が「家を立派に建てた上は、信心をたしかにいただいて念仏申しなさい」と、きびしく仰せになったのである。

### 二〇二〇(令和二)年

#### 金光寺報恩講のお知らせ

日時

- 十二月十五日 午前十時〜 日中法要（上下参り）  
（九区・十三区・十四区地区）  
午後六時〜 速夜法要（お番）
- 十二月十六日 午前十時〜 日中法要（中央参り）  
（十区・十一区・十二区地区）

講師

- 熊本教区 飽田組 浄行寺住職
- 浄土真宗本願寺派布教使 盛 忍 師

その他

お参りの際は、門徒式章、念珠と聖典（お経本）をご持参ください。  
本年から**十二月十五日の速夜法要は開始時間を「午後六時」に変更しました。**  
報恩講期間中の日中法要（午前十時からの法要）にお仕事等でお参りできない方は、十二月十五日午後六時からの速夜法要にお参りください。  
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、必ずマスクを着用してご参詣ください。体調不良の方は参詣をご遠慮ください。また、法要後のお齊については、感染拡大防止のためお配りします。ご自宅でお召し上がりください。  
浄土真宗で一番重要な法要・法座に多くの方のご参詣をお待ちしております。是非、ご勝縁をお結びください。